

認知症サポーター等の活動促進及び認知症のある人の社会参加について

I 認知症サポーター等の活動促進

1 趣 旨

令和 7 年度第 2 回認知症施策検討専門部会において、認知症の本人と家族を地域で支える『チームオレンジ Bunkyo』サポーターによる認知症に優しいまちづくり 2.0』の取組状況を報告した。前回の報告後から現在に至るまでの事業の実施状況について報告する。

2 主な事業内容と取組状況

(1) 地域で継続的に活動するサポーターの育成

① 認知症サポーターステップアップ講座

養成講座を受講した認知症サポーターを対象に、地域でのボランティア活動を後押しするため、令和 5 年度からより実践的な講座内容に拡充して実施している。

(定員 20 名)

年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
養成者（修了者）数	19 名	13 名	17 名	19 名 (8/5 出席)

(2) サポーターの活動状況と活動支援

① チームオレンジ活動

認知症カフェ等で、認知症当事者や専門職とともに、継続的に運営の一端を担っている。各活動先のスタンスに賛同し、運営協力の意向がある場合、事前に「チームオレンジ活動登録」を行ったサポーターに対し、活動支援費（500 円/回）を支給する。

〈活動中の登録人数〉11 名（※令和 8 年 7 月現在）

② 公式 LINE によるボランティア情報等の配信

認知症サポーター専用公式 LINE アカウントにより、ステップアップ講座修了者等に対し、認知症関連事業のボランティア活動に関する情報を適宜、配信している。

③ 認知症サポーター勉強会・交流会

ステップアップ講座修了者を対象に、地域活動に必要な知識やスキルについて理解を深めるための勉強会と、モチベーションの維持・向上を図るための交流会を開催（年 2 回）している。

〈令和 8 年度 第 1 回の実施状況〉

日 程：7 月 24 日（金） 参加人数：11 名

テーマ：認知症のある方と配偶者に話を伺い、互いを理解し合う・繋がり合うことの意義を考えるとともに、認知症になってからも自分らしく生きるヒントを見つける。

Ⅱ 認知症のある人の社会参加

1 趣 旨

認知症基本法を踏まえ、認知症の本人が地域で主体的に活動できるよう、関係機関と連携し、社会参加に関する機会を創出する取組みを進めている。前回の報告後から現在に至るまでの事業の実施状況について報告する。

2 主な事業内容と取組状況

(1) チームオレンジお助け隊事業（令和7年度重点施策）

シルバー人材センターと連携を図り、区内事業所から受注した仕事を、認知症（MCI やもの忘れ）のある会員とサポート会員が「チームオレンジお助け隊」として一緒に就業する。その活動を通じて、認知症に優しいまちに係る普及啓発や理解の促進を図る。

〈取組状況〉

① 活動登録者数 ※令和8年7月現在

認知症当事者会員：5名 サポーター会員：3名

② 受注件数 3件

室内での軽作業（簡易キットの組立て、スタンプ押し、資料の封入作業 等）、除草作業

(2) 喫茶ほっこり

「もの忘れがあるけれどまだまだ元気な方」が店員になって地域の方をおもてなしする『喫茶ほっこり』を、圏域を限定せずに継続的に開催する。

「当事者の役割創出」「認知症サポーターの活躍推進」「若い世代との交流」などを企画の要素に入れて、認知症のある方の社会参加の推進や認知症にやさしいまちに係る普及啓発と理解の促進を図る。

〈取組状況〉

① 令和8年2月に、駒込圏域の本人交流会「あんな坂こんな坂の会」に参加している方が店員になり、認知症サポーターも運営に参加して千駄木の郷ラウンジらんで開催した。

参考 喫茶ほっこのり報告 別紙1のとおり

② 今後の予定

開催日時：令和8年11月29日（日）13時～15時

場 所：kitchen haco（キッチン ハコ）根津2-19-6 1階